

職業能力開発 の 現場から

伝統建築から現代技術まで

—建設業の未来を担う若者が、働きながら本物の家づくりを学ぶ—



職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ

設置・運営●職業訓練法人東京土建技術研修センター
所在地●池袋校舎：東京都豊島区池袋 1-8-6
江東実習場：東京都江東区北砂 1-15-12
訓練コース●高度職業訓練専門課程 居住システム系建築科
訓練期間●2年

建設業の熟練技能者の高齢化や退職が進み、事業所の親方や先輩が見習の若手を教えるような徒弟制度が徐々に難しくなっている中、建設労働組合が職業訓練施設で技術、技能を継承し、後継者を育てようと設立されたのが、職業能力開発短期大学校東京建築カレッジだ。

○さまざまな仲間たちと学ぶ

職業能力開発短期大学校東京建築カレッジ（以下「カレッジ」）は、1996年に創立された。東京土建一般労働組合を母体とし、組合員の事業主によって設立された職業訓練法人東京土建技術研修センターの高度職業訓練専門課程である。定員は20人で、通常授業は毎週金曜と土曜。建築の仕事に携わりながら建築技術者・技能者を志す18歳以上の若者が、2年間ここで集合訓練を受ける。新卒でまだ職場が決まっていない場合などは、12万人の組合員を擁する東京土建一般労働組合が就職先を紹介する。割合としては高校新卒者が多いが、何年か見習で現場を経験してきた若手、建築士資格をもつ設計者、大学で技術を学んだ人、他分野から転身して新たにものづくりの技能職を選んだ人など、さまざまな経歴・背景をもつ研修生が、ともに教え合い、助け合いながら技能・技術の習得に励む。

「今は18歳から47歳までの年齢層の在校生があり、女性もいます。多種多様な人間が仲間として一緒に学ぶことは、実際の仕事の現場での助け合いにも活かされます。まずは挨拶励行を徹底します」（近藤初雄事務局長）

○本物の家づくりを習得するためのカリキュラム

木造建築技術を基本として、木材の加工はもちろん、計画、設計、構造、

設備、施工、材料、測量など、建築に必要な全工程を網羅したカリキュラムが組まれている。施工系、計画系、構造系、情報系について、専門教科科目、専門実技科目、専門総合科目を通じて学ぶことにより、建築のスペシャリストを育成することを目指す。

カレッジでは、基本理念として「建設労働者の技術、技能、教養、文化を向上させ、建設業と社会の発展に寄与すること」を目的としている。近藤事務局長は、「いずれは棟梁のような人材に育ってほしい、というのがわれわれの目標です。棟梁は、計画、それを実行する技能・技術はもちろん、ものづくりの組織を経営、運営し、新しい人材を育成する能力をもたなければなりません」と話す。

池袋校舎では、学科科目のほか、材料実験、建築CAD、製図の基礎などを学び、江東実習場では、自分たちの手で本物の家を作る「実習棟」のスペースと、材料を加工したり道具の手入れをする実習場、安全衛生や施工法を学ぶ教室が置かれている。実習場で鑿や鉋の手入れや、矩尺の使い方など大工仕事の基礎を学びながら、継ぎ手、仕口工作の実習で自ら刻んだ材料で2階建ての本物の家を作る実習を1年間かけて行う。

専門総合科目では、1年時に埼玉県飯能の秩父宿泊研修での西川材産地見学や、川崎市の日本民家園見学がある。2年時には奈良へ行って伝統木造建築を見学する宿泊研修や、林業実習で下草刈り体験も行い、現地では棟梁や職人の方からの講義もある。

そして、卒業制作では2年間の総仕上げとして、自分たちでテーマを決めた作品づくりに取り組む。

また、技能五輪全国大会や、全国建設労働組合総連合が主催する青年技能

競技大会へもカレッジの研修生、卒業生が出場し、これまで入賞者を何人も輩出している。

○地域に根ざすカレッジ祭

「東京建築カレッジ祭」は、技能文化祭として毎年秋に開催され、上棟式、子ども工作教室、作品販売、餅つき、包丁研ぎ、模擬店などを行っている。地域の方々に人気で、楽しんでもらいながら、カレッジの存在をアピールできる機会となっている。

「子ども工作教室はたくさんのお親子連れで賑わいますし、『指導員の先生の研いだ包丁はよく切れる』と、カレッジ祭を待ちわびている方もいらっしやいますね」

*

建設現場の若年入職者の減少が進む中、カレッジでは、いかに家づくりの技能を継承していくかという課題への対応に組合全体で取り組んでいると言える。近藤事務局長は、「業界を取り巻く状況は厳しい面もあります。国は技能者減少の対応策を進めています。さらに建設技能者育成の軸となっている職業能力開発の施策を抜本的に強化してほしい。衣食住の「住」の未来を担う若者たちのためにも」と力を込めた。



上棟式